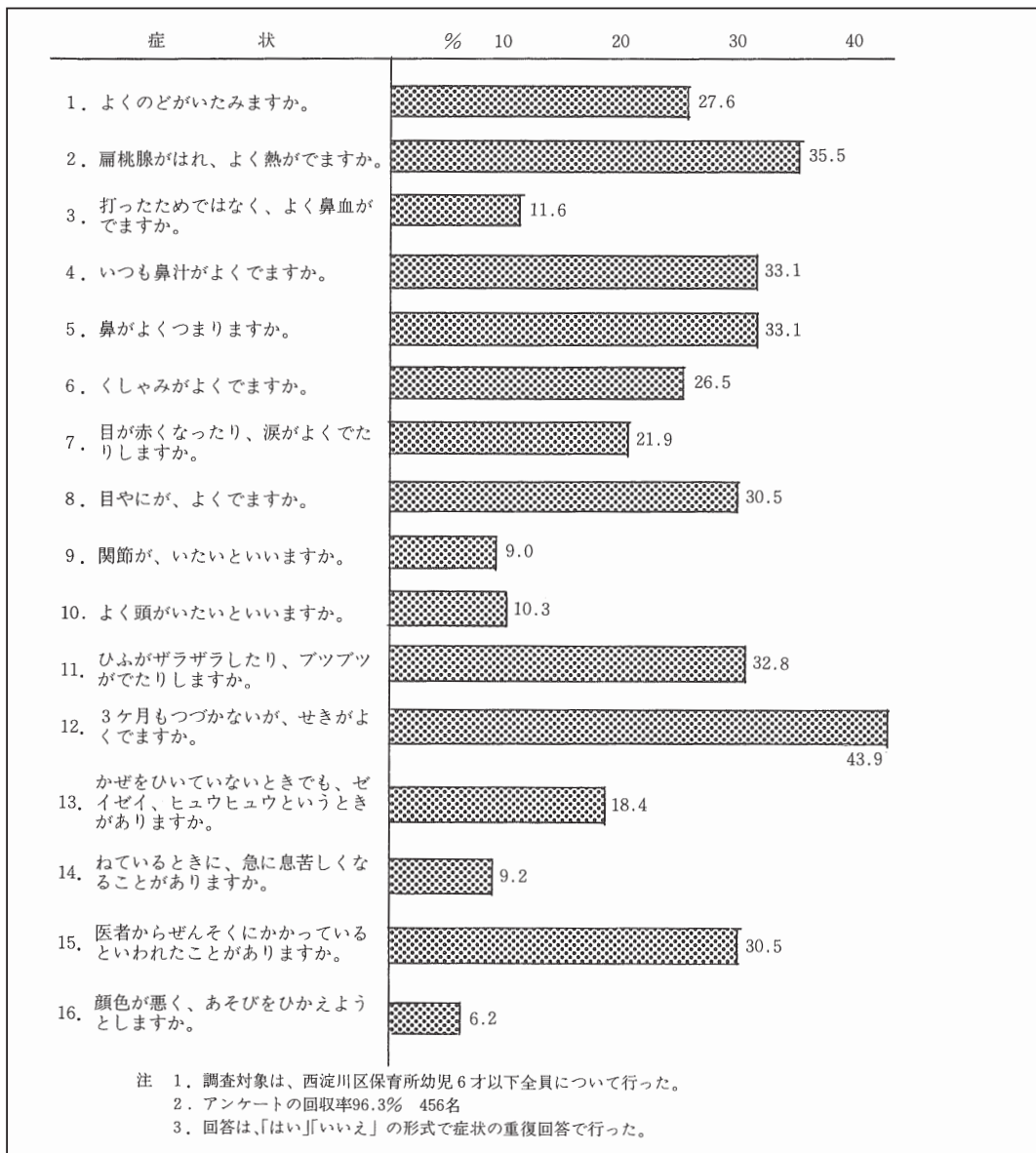


● 1971年の西淀川区内の保育所幼児の健康調査結果 ●



「公害被害者検査センター」の田中千代恵臨床検査技師による保育所幼児465人を対象とした健康調査結果(1971年)
 出展：『西淀川公害をなくせ 一人間の生命と健康はもっとも尊い』

● 気管支ぜん息の発作の状況 —南竹照代さんの証言— ●

・・・発作は、深夜から明け方にかけて起こった。発作がおこるとき、照代は「おかあちゃん、しんどい」と言うと、見るまに顔色が紫色（チアノーゼ）になってきて、額に脂汗が浮いてくる。息が苦しくなるのをなんとかしようと思うのか、自分でしきりにのど元から胸を手で上下にさする。

そのうちにぐーっと半透明の粘った「たん」が口から風船をふくらますようにして出てくる。ティッシュでこの「たん」をとろうとするが、取っても取っても次から次へ糸を引くようにして出る。咳き込みながら「エッ、エッ」となんとか「たん」を出そうとするが、思うように出せることはない。何も言えない時もあり、「息が止まる、息が止まる」「苦しい、苦しい」とうわごとのように言うこともある。息は「ヒーヒー」となり、肩を上下させながら目をつむったままじーっとしている。体はカチカチでちょうど小児がひきつけを起こしたような状態であった。

食べ物は全部吐いてしまい、何も食べていないときは、はくものがないので黄色い胃液が出てくる。ひどいときは失神、精神錯乱となる。・・・

(西淀川公害患者と家族の会発行『手渡したいのは青い空 西淀川公害裁判をたたかった原告の証言』より)

*南竹照代さんの話は12ページ参照。